アメゴ釣り編

こんなに魅力的な川が、私たちのすぐそばに。

特集 物部川をもっと楽しむ

全国的に見ても、こんなに豊かで、こんなにたくさんのアメゴに出会える川はまれですよ！

源流を目指して、渓流の女王に会いにゆく

初夏の渓流へ アメゴ釣りの醍醐味

日常から離れて大自然に飛び込み、シンプルな道具で魚と対峙する。釣れるときもあれば釣れないときもあるが、それぞれに味わいがあり心豊かな時間となる。しかしもちろん、釣れたときの興奮と喜びは何物にも代えがたい。

木々の若葉が芽吹く5月、物部町にある物部川源流へと続く谷。山中の渓流へと分け入り、アメゴを狙う岩崎嵩広さん（香北町永野在住）の姿があった。

岩崎さんは、香美市で渓流釣りをする人たちの間では名の知れた存在で、物心ついた頃から川で遊び、魚を釣っていたという根っからの釣り師だ。小学校の夏休みには、物部の押谷にある祖父母の家に泊まり込み、近くの川で釣り三昧の日々を過ごしたという。いまでも仕事が休みの日には、足しげく川に通って釣りを楽しんでいる。

この日は、北海道出身の岡本さんも同行。岡本さんは現在愛知県在住で、釣りを通じて岩崎さんと知り合い、連休を利用して泊まりがけの物部川釣行に来ているとのことだった。

岩崎さんはエサ釣り。岡本さんは小魚を模したルアーでアメゴを狙う。アメゴは虫やミミズ、小魚などをエサにする肉食の魚。食欲旺盛で、岩崎さんがこれまでに釣り上げたものの中には、同じぐらいの体長のムカデを飲み込んでいた魚もいたという。

谷の川幅は狭く、急峻。水が流れ落ちる淵や岩かげなどを見定めながら、ミミズを付けた釣り針を上流に投げ落とし、流れに任せて魚のいそうなポイントを通す。竿先のアタリと釣り糸の動きに神経を集中する。川の流れの音が、その音の大きさとは逆に静寂を感じさせるようだ。岩崎さんの表情が変わり、竿を持つ左手が鋭く動く。竿がしなり、しばしの格闘の後、魚影が水面に浮かぶ。アメゴだ。

※標準和名はアマゴですが、本記事ではアメゴと表記しています。

岡本さんはルアーで狙う。エサ釣りや毛ばりなど、いろいろな釣り方が楽しめる

渓流の女王とも呼ばれるアメゴの魚体が美しく輝く

尺アメゴか！？この日一番の大物にこの表情

数もサイズも一級品 物部川のポテンシャル

岡本さんは言う。「僕は昨年この川に初めて来て、人生初の尺アメゴを釣り上げた。出身の北海道をはじめ多くの川で釣りをしたけど、この川はすごい」

漁協の放流活動の成果で、物部川の支流の多くがアメゴの棲す（す）まう川となった。そのポテンシャルの高さは、県内のみならず県外の釣り人たちをも魅了する。

岩崎さんは、「初めてならエサ釣りがおすすめ。敷居は決して高くない」としながら、「自然相手なので危険もある。初めは経験者と一緒に行き、安全対策をしっかりと。そして、放流に頼りすぎず、釣り人が釣りをしながら魚を守っていく意識が大切」と話す。

――快調にアメゴを釣り上げながら源流に向けて進み、予定の半分の地点まで来たときだった。岩崎さんが「これはでかい！」と叫んだ。倒木が川面に掛かる川の淵。獲物と岩崎さんをつなぐ細い糸が、倒木の枝の隙間を縫う。アメゴの必死の抵抗を感じ「切られる！」と焦りの声を上げる。今日一番の大物だ。水中で暴れるアメゴに振られ、糸が倒木にこすれる。そして次の瞬間、一際大きな無念の声が山中にこだましたのだった。「絶対尺はあった！」糸が切れて逃した魚の大きさを悔いながら、また竿を振る。次こそ大物を釣り上げるために。

こういう悔しさもまた、釣りの醍醐味なんだな、と感じた。

アメゴの遊漁期間

■杉田ダムから下流（疑似餌釣り）
周年通じて遊漁可能です。

■杉田ダムから上流（疑似餌・エサ釣り他）
3月1日～8月31日

※禁漁区等の制限がある場合があります。詳しくはお問い合わせいただくか、物部川漁協のホームページをご覧ください。

HP http://monobegawa.sakura.ne.jp/

☎53−3224

この日は源流まで沢登り。遠く山々が見渡せる

途中おにぎりで腹ごしらえ

この日の釣果はキープ15匹！小さな魚は川に帰す